



## (財) 国際コミュニケーション基金 平成10年度助成・援助募集

財団法人国際コミュニケーション基金は、通信の普及・発展とコミュニケーションの促進を図り、世界の調和ある健全な発展に寄与することを目的として、下記の3分野について助成・援助を行います。

1. **調査研究助成**：通信の進歩・発展に寄与する調査研究（法律・政治・経済・社会・文化・技術の各分野あるいは各分野にまたがるもの）
2. **国際会議開催助成**：通信の普及・発展に寄与する国際会議
3. **社会的・文化的諸活動助成**：電気通信を通じて社会や教育等に貢献する各種の「草の根」活動

募集内容や条件、募集方法の詳細については、下記ホームページまたは気象学会事務局（03-3212-8341 内2547）まで。

**募集期間**：1998年10月1日（木）～10月23日（金）必着  
**申込先**：〒163-8003 東京都新宿区西新宿2-3-2

KDD ビル31F

財団法人国際コミュニケーション基金

Tel. : 03-3347-7094

Fax. : 03-3347-6439

E-mail : info@icf.or.jp

ホームページ <http://www.icf.or.jp>

**編集後記**：日本付近に梅雨前線が停滞し、東北北陸は梅雨明け無しで秋を迎えることとなった。最近では、毎年毎年が「異常気象」という感じさえ覚えてくる。さて、世の中では日本の戦後システムの変更を声高に語る声大きい。本当に、10年前には「日本の経営は世界一」と言っていたのが、180度の変わり方である。これらを見るにつけ、「節操のない」という感じを受ける。学問をめぐる状況も同じで、昨今は科学技術は国の経済発展の基礎とばかりに声高に研究費の増額が叫ばれる。その一方で、評価システムの確立が叫ばれている。変化する現実を目の前にして「何かしらうまく行くシステムがあるはずだ。日本はそれを導入しなけ

れば」という強迫観念で、皆が走り回っているような感じがしてならない。本当の所は、万能のシステムなどではなく、システムに参加している個々人が強いか、弱いかが重要なのであろう。従来、日本の研究を考えるとときには、「体制に問題がある」と主張してきた。確かに、戦後のある時期まではそうであっただろうが、現在では、「体制だけ」が問題なわけではあるまい。

気象学は自然と社会を相手にする学問である。ということは、自然から社会から挑戦を突きつけられることになる。これに対抗して行くためには、一騎当千のタフな個人を作って行く必要があるだろう。

(住 明正)